寺崎組新聞

道具研究　その1　ストーブ編

発行所　寺崎組新聞社

ひとくちにストーブといっても色々あるわけで、ひとまずは燃やす燃料により分類してみよう。

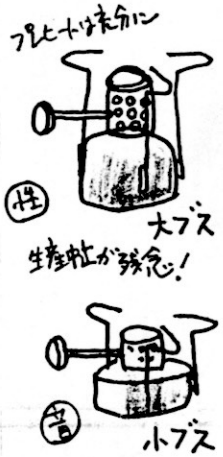
ガソリン

オートバイと同じ赤ガスが使える物と不純物の少ない白ガスを使う物とがある。大抵のストーブは白ガス専用となっているが赤ガスでも充分使える物があるので、その代表的なストーブを取り上げてみましょう。

□オプチマス8R
箱型で軽量コンパクト、パッキングしやすい。弱火がきくのだが燃焼音がやや大きい。コンパクトさの証明か燃料タンクが小さい。

□ホエーブス625
燃焼音が静かで弱火が充分にきくのだが、大柄で持ち運びに多少の不便を感じる。故障が大変少なく信頼性あるストーブなのだが、生産中止になってしまったのが大変残念だ。

□ホエーブス725
625を小型化した物。しかし燃焼音が大きく、弱火にするのにもコツがいる。ノズルやパッキン類の予備を持つことを勧める。



□MSR
バーナー部と燃料タンク部分が別体式なのでパッキングしやすい。タンク部分に火力調整用ノブがあるタイプはタイムラグがあるため弱火にするのが少少難しい。

□SMP（GIストーブ）
ガソリンストーブの中では珍しく赤ガス使用可の表示がある。しかし弱火がきかず強火専用となる。

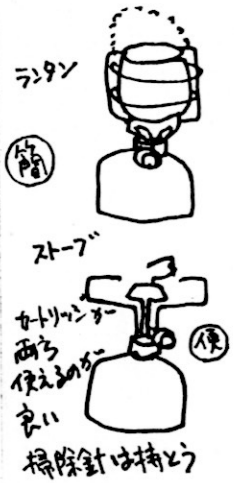
□コールマン・アンレディット
無鉛ガソリン専用ストーブ。これまでに記したストーブはすべて、ノズル下の受け皿でガソリンや固形燃料を燃やしてプレヒートする必要がある。ノズル部分のガソリンを熱によって気化させるのに対し、コールマンはポンピングによってガソリンタンク内の圧を高めて気化させる方式を取る。よって比較的安全である。弱火が充分にきき燃消音も静か。

灯油

何といっても燃料代が安い。オプチマス・ラジウス、日本製のマナスルに代表される灯油ストーブの特徴は、ガソリンより揮発性が少ない燃料を使うため比較的安全な事。ノズルのプレヒートが必要。ポンピングすることによって火力が強まり、タンク内の圧力を抜くことによって火力は弱まる。したがって火力調整には少々コツがいる。たとえ弱火にしていても、少しずつタンク内の圧力が高まり強火になってしまう。小量の米を炊く時などはまめな火力調整が必要となる。ガソリンストーブに較べると、燃焼音の割には火力が弱いのはいたしかたないところだ。

ブタンガス

今までに記したガソリン・灯油ストーブは点火のさいにプレヒートやポンピングなどの作業が必要であり、間をおいての再点火の場合も同じ作業をしなければならないのに対し、いつでもどこでも一発点火なのがブタンガスのカートリッジを使用するストーブだ。ガソリン・灯油ストーブを着火させる時はテント外でするのが原則であるのに対し、ガスストーブは扱いさえ間違わなければテント内で使っても充分に安全だ。ガスストーブは元々、高所登山用に開発された物で、より小さく、より軽く、そしてテント内でも充分使えるようより安全でしかもより簡単な着火を目指して作られた物だ。発売当初は不安だったガスカートリッジの調達も、昨今のアウトドアブームでディスカウントショップや釣具店などでも広く売られるようになり、不安は解消されつつある。



というわけで色々なストーブを見てきたわけだが、各ストーブの生れも育ちも違うわけで、当然ながら使われ方も使用目的も違うのです。

何の道具を使う時も同じだと思いますが、自分の使用状況にとって弱点だと思われる箇所も補ってあまりある長所を引き出すように工夫するのが、本当の道具の使い手なのだと思います。

さらに深い道具の使い手となられるよう、寺崎組の皆様には多くの期待を抱いております。

さらなる精進をお願い申し上げます。

（組長）